

## 最近の道内経済動向

- 道内景気は、一部に弱さがみられるものの、設備投資および公共工事の増加などから、全体としては緩やかに持ち直している。
- 先行きは、設備投資および公共工事による押し上げが下支えとなり、緩やかな持ち直しの動きが続くと予想される。

(注) 基調判断は、2019.10.24時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(8~9月実績が中心)。

### ●個人消費は緩やかに持ち直している

8月の主要6業態別小売店の合計販売額(全店)は、前年比3.4%増と2ヵ月ぶりに前年実績を上回った。消費増税前の駆け込み需要などを背景に家電量販店などが増加し、全体を押し上げた。また9月には、百貨店などでも駆け込み需要が本格化した模様。もっとも、前回増税時に比べると、駆け込み需要の規模は小幅にとどまったとみられる。

(注) 主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

### ●設備投資は持ち直し基調にある、公共工事は緩やかに増加している、住宅建築は減少傾向にある

北海道財務局発表の法人企業景気予測調査(7-9月期)によると、19年度の設備投資計画(全産業、含むソフトウェア、除く土地)は、前年比13.7%増と企業の設備投資意欲は旺盛さを持続している。製造業における能力増強投資や観光客受入態勢強化に向けた投資、市街地再開発などを背景に、持ち直し基調にある。公共工事請負金額(9月)は、前年比18.4%増(502億60百万円)と5ヵ月連続で前年実績を上回った。発注機関別にみると、災害復旧工事の発注増などを主因に国、市区町村等が前年実績を上回った。新設住宅着工戸数(8月)は、前年比▲6.9%と2ヵ月連続で減少。分譲住宅が3ヵ月連続で増加したものの、消費増税に伴う駆け込み需要後の反動減から持家が2ヵ月連続で減少したことに加え、貸家が6ヵ月連続で減少し、全体を押し下げた。

### ●生産は低下傾向にある

鉱工業生産(8月)は、前月比▲0.7%と3ヵ月連続で低下した。「鋼半製品」が増産となった鉄鋼業などが上昇したものの、道外向け生乳移出の増加に伴い「乳製品」が減産となった食料品や、「集積回路」が減産となった電気機械などが低下し、全体を押し下げた。

### ●輸出は減少している

9月の通関輸出額(速報値)は、前年比▲27.4%(207億円)と2ヵ月連続で前年実績を下回った。品目別では、欧州向けでクメン(自動車部品などの樹脂原料)などの「有機化合物」や、韓国向けでキシレン(ペットボトルなどの原料)といった「鉱物性タール・粗製薬品」などが前年実績を下回り、全体を押し下げた。

### ●観光は堅調に推移している

8月の来道者数(国内交通機関経由)は、前年比▲0.1%とほぼ前年並みの水準となった。外国人入国者数(8月)は、韓国線の旅客数減少などを背景に、同▲20.4%と9ヵ月ぶりに前年実績を下回った。ただ、9月の国際線旅客数では前年実績を上回っており、振れを伴いつつも増加基調を維持しているとみられる(右図表参照)。

### ●雇用情勢は回復している

8月の有効求人倍率(パート含む常用)は、前年比0.04ポイント上昇の1.22倍となり、115ヵ月連続で前年実績を上回った。ただし、職種・地域間では、雇用のミスマッチが見受けられ、人手不足の状況が続いている。

### 9月の海外客数は増加に転じたとみられる

新千歳空港国際線旅客数をみると、9月は前年比4.4%増と2ヵ月ぶりに前年実績を上回った。内訳をみると、韓国線旅客数が8月から2ヵ月連続で大きく減少したものの、5ヵ月連続で増加した中国線旅客数や、2ヵ月連続で増加した台湾線旅客数などの押し上げが、韓国線旅客数の減少分をカバーしている。

